

→悲劇のおんな主人公・建礼門院徳子と、後白河法皇が辿った道

2022.6.12 (日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第570回 参加報告

京都六地藏の一つ、深泥池地藏堂(現在は上善寺)をへて、深泥池貴船神社へ。六地藏は「六道」のそれぞれにあり、衆生の苦悩を救済するという檀陀(だんだ)・宝珠・宝印・持地・除蓋障(じょがいしょう)・日光の六種の地藏菩薩のこと。街道口六ヶ所にそれぞれ六角堂を建て、六体の地藏菩薩を一体ずつ分置し、回り地藏と名付けたのが京都六地藏の始まりだ。ちなみにお寺を六つ巡ると浄土に行くことができるとか……。

すぐき発祥のいわれのある秋葉神社をへて圓通寺へ。この圓通寺は、後水尾天皇の離宮だったとか。比叡山を望む借景式庭園をながめながらご住職さんの流れるような説明をお聞きした。この景観は「京都市眺望景観創生条例」によって維持されていて、後世まで受け継がれていくということである。国の名勝にも指定されているそうだ。



比叡山を望む借景式庭園(圓通寺)

次に皇室とのつながりも深い幡枝八幡宮へ。現在も菊の御紋入りの御輿・御銚がご神宝として保存されている。そして最後に二軒茶屋の小公園で休憩の後、補陀洛寺(小野寺)へ。このお寺は、天台宗の寺院で、小野小町が晩年を過ごしたという伝説もあり、小町姿見の井戸や、小町老衰像が安置されていたが、レジュメには、「<大原御幸>に“鞍馬どほり(鞍馬街道)の御幸なれば、彼の清原の深養父が補陀洛寺、小野の皇太后宮の旧跡を観覧あつて、それより御輿にめされけり、とあるのが当寺と思われます」とあつた。果たして、小野皇太后(後冷泉天皇の皇后)と小野小町が混同されたのか……。境内には立派な檜が立っていて、根本はつながっているように見える。以前は十三本あつたが、落雷で現在は九本になっている。



小町寺(補陀洛寺)の十三本檜

6月とも思えぬ暑さの中、一人の落伍者もなく無事最後にバス停「小町寺」、あるいは、さらに少し歩いて叡電「市原駅」に到達。

次回、7月は二上山博物館とどんづる峯。皆さんのお元気な姿にお会いできるのをたのしみにしております。

<報告/田原由美子>